



巻頭言：第7号の刊行によせて

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪公立大学都市科学・防災研究センター『都市と社会』編集委員会 公開日: 2024-04-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 重松, 孝昌 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002000548

巻頭言：第7号の刊行によせて

重松孝昌（都市科学・防災研究センター所長／工学研究科教授）

20余年前に、「国際都市・異文化都市とは何か」ということについて考える機会があった。そのときのキーワードは、『るつぼ』と『万華鏡』であった。

ご存じのように、『るつぼ』とは金属などを高熱で溶かす容器であり、この中でそれぞれの金属は溶けて混ざり合い、混ざる前の金属は判別することができない状態になる。このように、さまざまな人や文化が互いに融合してそれぞれが新たなアイデンティティを生み出し、その結果として新たな社会・都市を創出することが、国際都市・異文化都市が目指す方向性であるという象徴としてるつぼが用いられているのである。一方、『万華鏡』とは筒の中に封入あるいは取り付けられた物体を鏡像の組み合わせ模様として視認するものである。模様や色は互いに干渉するわけではなく、しかし、総体として実に美しい煌びやかな小世界を見せてくれる。このように、個々の特性を保持しつつも総体として新たな社会・都市の創出することが、国際都市・異文化都市の目指すもうひとつの方向性であるというのである。両者ともに、とても面白い例えだなあと感じた記憶がある。最近では、『るつぼ』と『サラダボール』という対比が用いられているようである。同じ容器になぞらえているという点では、こちらの方が良いかもしれない。

さて、「都市と社会」第7号は、2022年4月の大阪公立大学の発足に伴って、大阪市立大学の都市研究プラザと都市防災教育研究センターが統合して都市科学・防災研究センターが設置された。

「都市と社会」第7号は、都市科学・防災研究センターとして初めて発行された記念すべき号である。すなわち、都市研究プラザという都市研究という器（サラダボール）がUReCという器に様触りするとともに、器に入る素材がいつそう多様になったのである。これまで以上に、色や味の異なる多様な素材がちりばめられた内容となっている。是非、新しいサラダを堪能いただきたい。今後、このサラダボールに詰め込む素材が溢れんばかりに生み出されることと、溢れないようにサラダボールが、ますます、大きくなるように祈念している。